

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

〈事務局〉

〒514-0003 三重県津市桜橋 2丁目131

三重県社会福祉会館 1F

編集：広報部会

電話 059-213-7766

FAX 059-213-7765

<http://mie-cma.com/>

〈発行者〉

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

会長 奥田隆利



令和六年度介護報酬改定について考える



一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利

会員の皆様方におかれましては、当協会の事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、利用者様の生命と日々の生活を守り、自立支援とQOLの向上をめざすケアマネジメント業務を遂行されていることに心より敬意を表します。

さて、今回の介護報酬改定の基本的な視点としましては、「地域包括ケアシステムの深化・推進」「自立支援・重度化防止に向けた対応」「良質な介護サービスの効率的な提

供に向けた働きやすい職場づくり」「制度の安定性・持続可能性の確保」など主に4つの柱が掲げられました。

今後益々増加する認知症の方や単身の高齢者、そして医療ニーズが高い中重度の高齢者を含めた利用者様に、質の高いケアマネジメントを踏まえた必要なサービスが切れ目なく提供できるようにするために介護支援専門員として、地域の様々な医療・保健・福祉等関係機関との連携など実情に応じた柔軟かつ効率的そ

して迅速な業務の遂行が要求されます。

質の高い公正中立なケアマネジメントにおきましては、特定事業所加算の算定要件に、多様化・複雑化する課題に対応するための取組を促進する観点から、「ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等に参加していること」を要件とするなどの見直しが行われました。これらに対応していくためには、ソーシャルワーク機能の充実を図るための個々のレベルアップが必要となります。

当協会といたしましては、日本協会並びに各支部と連携しつつ法定研修のみならず法定外研修（県協会の独自研修）につきましても更なる質の向上を図ってまいります。

最後に、本年2月に開催いたしました「日本介護支援専門員協会東海ブロック研修会 in みえ」にご参加並びにご協力いただきました会員各位に心から御礼申し上げます。

令和5年度 東海ブロック研修会



講演① 令和六年度介護報酬改定から見る

介護支援専門員のあり方・役割

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

諏訪林 智

介護保険を取り巻く状況として、日本における高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少があり、令和六年度介護報酬改定では人材不足と処遇改善を課題としており、介護職員の処遇改善に0.98%、その他に0.61%で全体としては1.59%増となった。

介護保険の受給者は、年々増加傾向であるが、介護支援専門員合格者は、平成三十年より受験者及び合格者数が減少となり介護支援専門員従事者不足が考えられる。その課題に対して質の向上、業務効率化の観点から、適切なケアマネジメント手法、通減性の見直し検討を行うべきである。

令和五年度介護保険法改正では、介護情報基盤の整備、介護サービス事業者の財務状況等の見える化、介護サービス事業所等における生産性の向上に資する取組に係る努力義務、地域包括支援センターの体制整備では、要支援者に行う介護予防支援について、居宅

介護支援事業所も市町村からの指定を受けて実施できること、その際、指定を受けた居宅支援事業所は、市町村や地域包括支援センターとの連携を図りながら業務を実施することと改正された。

令和六年度介護報酬改定、居宅介護支援では、基本報酬の微増、特定事業所加算要件の見直しと加算増となつている。また、担当できる件数と予防支援の取扱件数が増えた。業務継続計画、高齢者虐待防止、身体拘束適正化、一部の福祉用具に係る貸与と販売の選択制が導入された。

講演② 大規模自然災害！あなたは何をします？何を備えます？

防災実務コンサル OfficeNICK 代表
兼 三重大学 安全・防災・危機管理室
災害対策コーディネーター 飯田 昌美

今回の講演のポイントはいくつがあった。そのなかでも一人ケアマネのBCPについて参考になることが紹介された。

BCPの義務化は承知しているが、本場に必要なのは何であるか、ケアマネにとってBCPはまず自分自身が安全にしているかが、ベースである。

一人ケアマネの場合のBCPについて、一人では限界があるという点、平素から地域での関係性が大事であり、また、各事業所との関係性も大事である。地域とどのように繋がっていくか一人ケアマネ同志の協力体制を作ること、まさしく共助システムの導入である。

一人ケアマネの課題として利用者の安否確認とケアプランの見直しなど共助システムの構築を進めていくこと。

① 新しく作る（松阪市）

一人ケアマネ同志が連携し共助のための情報共有を図る。二次被害のことも考えて、その土地や特有の地形なども把握して取り組むことも大切である。

② 既存のシステムを活用（明和町）

地域包括支援センターを強化して共助体制を構築するもの。地域包括支援センターの職員が中心となって束ねていくこと。（リーダーシップの発揮）

非常時の包括支援体制は普段の体制をベースに普段とちがうところを修正していけばよい。すなわち、地域包括ケアは平素から共助体制であり災害時も



共助体制であること。

石川県能登半島地震の災害を糧に、南海トラフ地震に備えて今、自分は何にをしますか？何を備えますか？に多くの方が自問し考えさせられた講演であった。今一度、大規模自然災害を想像して創造するときである。

愛知県 ICT活用によるケアマネジ メント業務の効率化について

効果的なサービス担当者会議の取り組み

愛生館グループ ケアプランセンター ひまわり

統括所長 磯村 直美

ICT導入の背景と目的は、コロナウイルスの蔓延によりサービス担当者会議等の開催が困難になったこと。また、厚生労働省の全国調査で、担当者会議は介護支援専門員の負担が多い業務とされたこと。こうした背景のもと、積極的にサービス担当者会議へのICTを導入し、メリット、デメリットと今後の課題を明らかにするための研究発表があった。



アンケート結果では利用者ご家族から多かったのは「密にならなくて良い」、「直接話した方が良い」という回答がほぼ同じで、ケアマネジャーでは「移動時間の削減」

が圧倒的多数であった。サービス担当者会議の開催に準ずる記録・文章作成・調整業務を短縮でき、実際に業務効率化となりチームアプローチの推進にも繋がった。ひいては、ケアマネジャーの本来業務である利用者や家族に真摯に向き合える時間を確保することが、ケアマネジメントの質の向上に繋がると考えられますとの報告であった。

岐阜県
小規模地域における主任介護支援専門員の役割発揮のための後方支援
 ～人作り、地域づくり活動計画シートの有効性の試み～
 愛生館グループ ケアプランセンターひまわり
 統括所長 磯村直美

地域包括ケアシステムの構築における主任介護支援専門員の役割には「地域づくり」「人づくり」の二つの役割があり、美濃市において岐阜県独自の「人づくり・地域づくり」活動シートというツールを使っての主任介護支援専門員の活動計画が発表された。

活動計画を立てるだけでなく、主任介護支援専門員同士がディスカッションし課題や進捗状況について再確認され、その中で個々の活動に任せるのではなく、小規模地域の強みをいかした活動をしよう、美濃市では所属法人の垣根をこえたネットワークを主任介護支援専門員同士が構築し、協働で取り組む活動を行っている。

その活動を地域包括支援センターが後方支援する事で主任介護

支援専門員の役割発揮ができるようサポートし、地域全体で美濃市を良くしようとする取組んでいる。



静岡県
静岡県キャリアラダー（評価表）の導入と介護支援専門員の実践能力の課題
 静岡福祉大学教授
 介護支援専門員研修向上委員会評価部会委員
 榎木博之

静岡県では介護支援専門員が各関係者と連携をとり、利用者の自立支援に資する適切なケアマネジメントを実施出来る事を目指して、介護支援専門員が自己評価及び他者評価を行うキャリアラダー（評価表）を取り入れている。

キャリアラダーには大項目八項目、中項目二十七項目、小項目八十五項目あり、自身の強みや弱みを知り、目標を明確にし、自己研鑽をするという役割がある。

多くの項目があり、チェックするだけで体力のいる作業ではあるが、このような可視化をする事で、介護支援専門員の頑張りや能力の向上に



ついで他職種に伝える事が出来る一つのツールでもある。まだ普及段階ではあるが、キャリアラダーが介護支援専門員のモチベーション向上に繋がっていくと思われる。

三重県
単独型居宅介護支援事業者における他事業所連携型BCPの構想
 ケアプランセンター大地 管理者
 橋本由佳

新型コロナウイルスや今年一月一日の能登半島地震発生によりBCPの必要性を強く感じるとともに今年四月の法的な義務化も迫り関心の高い内容であった。

橋本氏は単独型居宅介護支援事業所の管理者として起業された三年前より同じ市の単独型事業所と定期的に研修等を行い、事業所間での協力体制を考えておられた。BCP作成については『単独事業所だけではBCPの維持が難しい』という課題に対して他の単独型居宅介護支援事業所と協力体制をとり、災害時には円滑な対応が行える様に避難場所や避難方法だけでなく、利用者一

覧の作成や安否確認の優先順位の検討や定期的な更新を行い、緊急時に備えていることが報告された。



報告
日本介護支援専門員協会活動報告
 日本介護支援専門員協会
 常任理事 山田剛

まずは長野県で今年十月二十六・二十七日に開催される全国大会について、（一社）長野県介護支援専門員協会の副会長寺澤様と理事松澤様が大会への参加を呼びかけられた。

来賓挨拶の中でも現場の声を国にあげていくことが大事であると言われていた。日本介護支援専門員協会としても日本唯一の介護支援専門員個人を会員とする職能団体として同様に考えている。そのため協会は地域支部、都道府県支部、日本協会の三層構造で連携体制をとり会員の声を国につなげようとしている。各層がそれぞれの単位で活動を行い、必要によっては一体となって活動する。それぞれの役割を十二分に発揮できるように連携することは、国に対し声をあげることが出来る有効な方法であると感ずる。そのことをより強く推し進めるためにも、絶対的な会員数が必要である。絶対的な会員数を確保するためにも、魅力のある協会を私たちが作り上げていかなくてはならないのではないかと。職能団体としての社会的地位の向上を目指すための取り組みを一緒に考えていけば、大きな力を生み出し、結果として高齢社会に対し求められる役割を発揮することが出来るのではないだろうか。

三重県介護支援専門員協会 アンケート結果報告

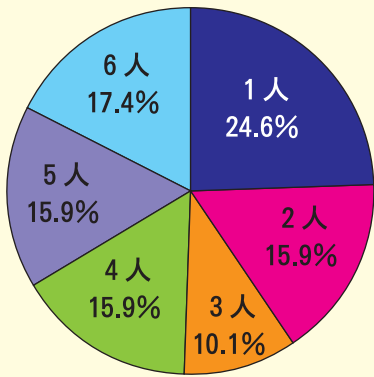
三重県介護支援専門員協会 副会長 長谷川真介

昨年、介護支援専門員の実態の把握を目的としてWEBを活用したアンケート調査を行いました。ご協力ありがとうございました。今回はその一部をご紹介します。詳しくはホームページにアップする予定です。そちらをご覧ください。

●事業所の状況

居宅事業所規模として、一番多かったのは一人ケアマナの事業所で二十四・六％で、次に多いのは6人以上の配置の事業所で十七・四％でした。

◆事業所介護支援専門員数



担当件数としては、要介護の担当では21件以上の担当が最も多く、要支援の担当では、10件以上を担当していると回答された方が最も多い状況でした。

●運営に関する声

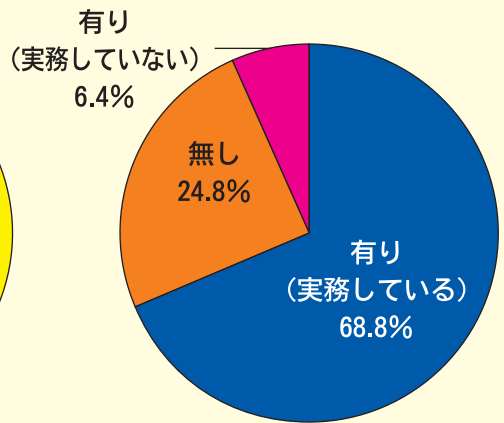
BCP作成は六十・九％で完了と回答される方が多い一方で二十九・一％は未作成と回答がありました。未作成の理由として、業務が多忙の為に答える方が多く、作成の仕方がわからないとの回答もありました。

ケアプランデータ連携システムは九十四・二％で未導入でした。導入予定の事業所も二十四・六％ありましたが、導入しない理由として、「周囲が導入していない」、「費用負担の問題」と回答が上位になっています。

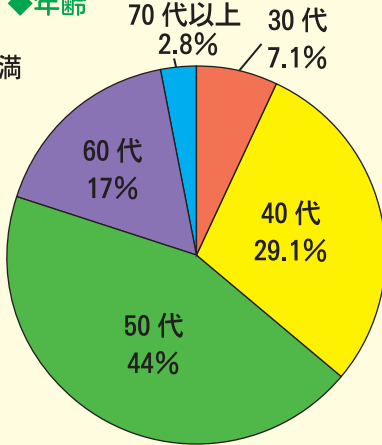
地域に多職種連携のICTのネットワーク状況では、半数が利用していると回答されています。活用状況では、主治医との連絡やサービス事業所との連絡、情報共有手段として活用していると回答する方が多い状況でした。

●人員に関する声

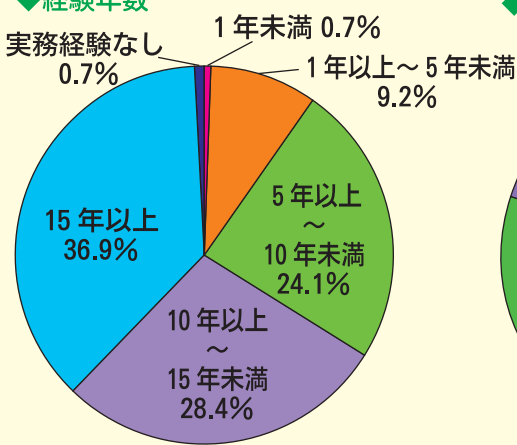
◆主任介護支援専門員資格



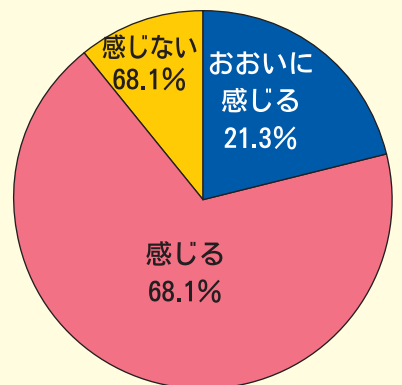
◆年齢



◆経験年数



◆やりがいについて



●介護支援専門員の確保・離職防止に関する課題等自由記載(一部抜粋)

- ・定年年齢引き上げ。
- ・給与面の改善。
- ・若手職員のサポートがあまりない。研修、事例検討会、多職種連携の会など開催はあるが、気軽に行けないと思う。
- ・介護支援専門員の魅力を世間に発信できていないような気がします。給与や仕事の魅力をPRできるようなものがあれば目指す人が増えるような気がします。
- ・医療系のようにドラマで取り上げられるといいのですが。
- ・居宅内の連携・協力。
- ・業務に似合った給与が望めない。
- ・現場の介護職員等との収入に差がないこと。

- ①資格更新制度が不便。そもそも日頃から実務しているケアマネにとっては不要（あらためて学ぶことがない）それでも研修が必要なのであればたとえ5年の間に所定の研修を何回受ければ更新できるようにするなど日程調整に幅を持たせて欲しい。また費用の負担の割に指定の教科書は活用されないことも不満（互いの事例提出で足りる）。
- ②必要書類の簡素化、業務の簡素化③報酬アップ
- 子育てをしながら、または高齢になりパート勤務で働きながらなど、時間に制限があると、利用者宅への訪問、急な調整などが難しいかもしれない。フォローし合える職場であれば良いが、一人ケアマネだと厳しいかもしれない。
- スーパーバイザーの構築有志による勉強会や集まる機会作り
- 魅力発信を地域単位でできれば。初任者研修等介護への入口を地域で行い、かつ講師も地域の事業所に依頼することで、スカウトの場の側面も出てしまうとは思いますが、自施設で働くかもしれない方を指導するという意味で、事業者の意識改革や知識の底上げにつながるのではないかと感じている。

- 求められる業務内容が高度になってきている。各専門職の実務経験が五年以上必要なので、ケアマネ資格を受験する年齢が、結婚前や子供が低年齢である事が多くなると思います。三十代のケアマネは、少ないのではないのでしょうか。例えば、大学で相談援助を教わり、そのままケアマネ試験を受験できる位でないと、ケアマネの専門性も高くないと思います。
- 介護支援専門員の自己研鑽ができる研修会への参加を促したり、地域内で実務について等の相談ができる仕組みをつくって、不安を解消する機会をもてればと思います。
- ケアマネが働きやすいスタイルを確保すること。（例）勤務時間は自由、自宅で計画書作成しても良いなど。

●アンケート調査を終えて

会員様からの声を沢山頂き、置かれていた状況が大変である事を再認識することとなりました。アンケート結果を踏まえ、協会の今後の活動に役立てていきたいと思っております。また、行政機関などとの会議の際には、会員様の環境がより良い方向へ向いていくように発言を行って参りたいと思います。

☎0594-41-2110



桑員支部

PR 4 市町から委託を受け年 6 回以上研修を開催し、アンケート結果は毎回高評価です。介護支援専門員の質の担保と育成を視野に、職能団体として確実な地位の確保のため活動しています。

📝 4 年ぶりの集合研修。テーマは『コロナ禍の疲労蓄積を発散！～対人援助職のセルフケア～』自分達が頑張ってきた事を発表し、お互いを労う会になりました。

👉 地域の中での役割の重要性が益々期待されています。必要とされる方に必要なサービスが行き届くように行政への提案を含め、地域の介護支援専門員が活躍できるよう支部として活動していきます。

💬 能登半島地震により被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。地震は日本全国どこでも発生する可能性があります。三重県は南海トラフ地震の被害想定全国 4 位とのデータがあるとのこと。想定外が想定され、いざという時に迅速な行動ができるのか不安は尽きませんが、皆でBCP 整備等、災害対応への理解を深めるしかないですね。

✉ kuwakeamane@gmail.com

支部だより

集合研修等が再開されるようになってきました。オンラインでの研修もいですが、久しぶりの顔が見える研修は新鮮で新たな気づき等があったのではないのでしょうか。今年度は法改正、BCP 整備等、忙しい一年になります。情報交換等をして、みんなで協力して乗り切りたいですね。

PR 支部活動 PR を紹介。

📝 令和 5 年度開催の研修会を紹介。

👉 次年度に向けての抱負や目標を一言。

💬 担当編集者のつぶやき



鈴亀支部

PR 研修会は、Zoom 開催を継続していますが、事例研究会については、対面開催を行い、改めて事例検討会と研究会の違いは…といった質問もあり、基本に立ち返りながら事例研究会を行えました。

📝 第1回：①精神保健分野における関係機関との連携について
②精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの実情～実事例に基づいて～

第2回：ケアマネジャーのための難病支援
第3回：ケアプランに求められる思考過程
第4回：令和6年度介護保険報酬改定説明会
津・鈴亀支部合同研修会：法廷根拠を押さえたケアマネジメント～“自立支援”を再認識～

👉 今年度も研修会を Zoom 開催とすることで、遠方の講師への依頼、他支部の方への参加拡大もできました。次年度も同様に Zoom 開催を主とし、他支部の方の参加もできるようにしていきます。

💬 今年は新年早々大変な幕開けとなりました。決して対岸の火事ではないので、こんな時こそ日頃の準備を見直し、個人として支部として何ができるかを考えていきたいです。

✉ mie.cm.suzukameshibu@gmail.com

三洩支部



PR 偶数月の研修会は新型コロナ5類移行後、内容に応じ対面での開催を再開しました。また、広報部の活動も実施。三洩支部ホームページの活用やケアマネカフェの開催を通し資質・業務の向上、連携や介護支援専門員のつながりを深めた1年となりました。

📝 対面での研修会の開催。グループワークはもとより、研修中・研修前後においても大変盛り上がり対面ならではの良さ、顔を合わせての研修等の大切さを改めて実感した研修活動となりました。

👉 研修会をはじめ広報部の活動等を通し、より介護支援専門員の資質向上や就業継続、立場を守り成長していくという点においても役割を果たしていければと思います。

💬 対面での研修などの機会が再び戻り、対面の良さを実感する1年となりました。それと同時にオンライン実施の利点も改めて感じ、内容や状況に応じて随時適した方法で実施していければと思いました。また、介護支援専門員に求められる事も年々増える中、介護支援専門員の立場というものもしっかりと守りながら資質向上や地域との連携も進めていければと思います。

✉ mie.care.association.branch@gmail.com



松阪支部

PR ①年9回の研修会開催 ②行政との連携・協議 ③会員アンケートの実施と分析 ④広報活動が支部活動の4本柱です。3年ぶりに開催された松阪市健康フェスティバルで、ケアマネジャーの存在をPRしました。

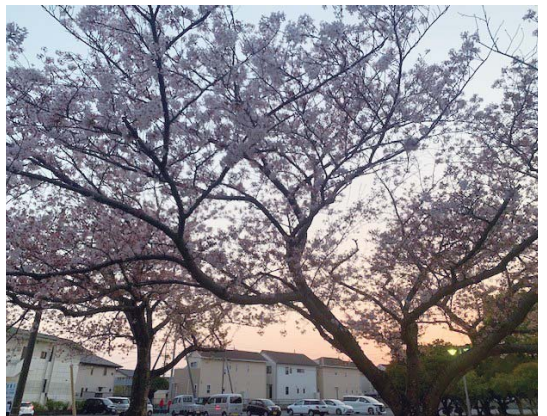
📝 今年度も多職種連携研修会をZoom開催！若年性認知症当事者である丹野智文氏の講演を聞き、グループワークを実施したところ、大きな反響がありました。認知症に限らず、当事者の話を傾聴して受け止めることが支援者としての第1歩であると学びました。

👉 報酬改定を直前に控えています。身近で相談しやすく、頼りになる存在であり続けるために、32名の理事が力を合わせて活動していきます。

💬 次世代の介護支援専門員が続々と仲間に加わる、そんな日がやってきますように。

✉ caremane@matsusakawel.com

津支部



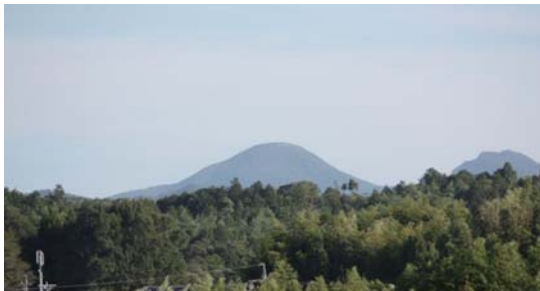
PR 年に6回の勉強会を開催し、研鑽を重ねております。

📝 訪問診療医や訪問看護ステーション協議会との合同勉強会、津市役所介護保険課との意見交換など、多職種とスムーズに連携できるような勉強会を開催しております。

👉 会員・非会員関わらず、ケアマネジャーの絶対数が不足しているように感じます。苦労話や給料が安いなどのネガティブな面だけでなく、ケアマネの仕事の魅力を伝えていければ良いかと思えます。

💬 天災や戦争など不安定な世の中ですが、やさしい世界になりますよう、皆で選挙に行きましょう。

✉ hitorihitori.hmp@outlook.jp（支部長）
✉ tlsshisei@zd.ztv.ne.jp（事務局）



伊賀支部

PR 尼ヶ岳：伊賀市と津市（美杉村）にまたがる伊賀一番の高山。標高957m山頂付近が尼の頭のように丸くなっているところから、この名が付いたと言われ富士山に似た形から「伊賀富士」とも言われている。登山の好きな方一度登ってみてください。

📝 今年度は「コーチングをやってみよう」と全3回シリーズでコミュニケーションスキルを基礎から楽しく学ぶと題して7/29・11/11・2/17の開催です。森岡内科クリニック院長 森岡浩平先生（国際コーチング連盟アソシエント認定コーチGallup社認定ストレングスコーチ）より講義いただき楽しく学んでおります。

👉 コーチングの基礎を学んだので身に着いて展開していけるようにと考えております。医師や薬剤師・看護師との交流も計画していきたい。

💬 大きな災害が起こると、安定した生活がとてもありがたいと思います。苦しい思いをされている方々が少しでも安らかに過ごせるように自分たちもできる支援をしていきたい。

✉ keamanekyoukai.igasibu@gmail.com

南勢志摩支部



PR 南勢志摩支部では、月に1回程度、運営委員会を開催し、研修会等の企画・検討、意見交換などを行っています。

📝 三重県介護支援専門員協会理事の山田剛氏、講師による「～多職種連携の実践的理解～ケアマネジメントとチームアプローチ、多職種連携上の課題とその対応について理解を深める」という研修会を開催し、とても好評でした。

👉 会員の皆さんにとって有意義で、交流の場にもなるような研修会・勉強会を開催できればと考えています。

💬 このたびの令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災を受けられた皆様の安全と1日でも早く平穏な生活に戻られますことを心よりお祈り申し上げます。また、三重県に住む、われわれにとっても南海トラフ地震への備えの大切さを改めて実感しました。

✉ now2just7relax@yahoo.co.jp



紀南支部

PR 多職種でのつながりを大切に、様々な機関との活動にも積極的に参加しながら交流することで、多職種間の距離が近くなっています。

📝 昨年6月に「5類移行後の新型コロナウイルスについて」と題して、紀南病院感染対策室の根本看護師による講演会を行いました。その他、関係機関との共催や協働で、看取りに関する事例検討や多職種が交流するイベントなども行いました。

👉 2024年度を間近に控え、ケアマネジャーが抱える課題が複雑、複合化していることから、個別ケースとしてではなく、世帯別で関わるための対応がスムーズにいくよう、行政機関や地域包括支援センターなどと協力しながら、多職種間の連携を図るよう努めていく。

💬 ついこの間、元号が変わったような気がしていましたが、もう令和も6年なんですね。月日の流れを早く感じるのは歳のせいでしょうか？

✉ mie.kihoku.omn@gmail.com

紀北支部



PR 私たちが活動する紀北（きほく）地区は県の南部、東紀州に位置しており、23名の会員で活動を行っています。コロナ禍の影響で、会員同士集まる機会を持つ事が難しい状況が続いておりましたが、ようやくリスタートできる環境が整いつつあります。しかし異動や転職、退職に伴う会員数の減少が続いており、支部活動の運営にも影響を与えている状況です。

📝 今年度の研修会のテーマとして、「BCP（事業継続計画）」「権利擁護」「認知症」について、学ぶ機会を計画しています。

👉 来年度は、支部役員改選の年を迎えることから、新たな体制で支部活動を進めていきます。研修会については、引き続きオンラインツールを活用するなどして会員向け研修の機会を確保していきます。

💬 日々現場で活躍されている皆様へ、来る介護報酬の改訂により、多方面での業務の見直しや対応を迫られる季節となりましたが、私達は決して孤独ではありません。手を取り合って、一歩ずつ前に進んで行きましょう。（画像：尾鷲市・天満浦のご来光）

FOCUS ケアマネ File 29

「ケアマネジャー 7年目を迎えて思うこと」

訪問介護ステーションそらまめ
居宅介護支援事業所
管理者 楠本 恵

皆様、こんにちは。この度は、このような機会をいただき、ありがとうございます。この場をお借りして、今の考えを言葉にしてみました。

題名にある「ケアマネジャー7年目を迎えて思うこと」。それは「対人援助職のメンタルヘルスの大切さ」です。私はもともと対人ストレスを多く抱えていましたが、ある学びをきっかけに、驚くことにそのストレスは百分の一にまで小さくなり、ケアマネジメント業務を行う上でもとても助けになっています。

その学びとは、皆様もよく耳にする「コーチング」です。

コミュニケーションに苦手意識があった私は、ケアマネジャーを始めたことをきっかけに、その苦手意識を克服しようと、地元の先輩ケアマネジャーさんからのご縁

でコーチングを学び始めることにしました。試しに受講した講座が面白く、「せっかく学ぶなら資格が取れる場所ですっかり学ぼう!」と、講座を主催していたスクールに入り、一から学んでみることにしました。

そこで一つ驚いたことは、コーチングって会話のスキルだけでなく、「心」についての学びも多く含まれているということです。「心」について学ぶことは、コーチの在り方を体現する為に重要な学びであるということを知りました。コーチングにおける心の学びの中でも、「自己理解」「自己受容」が土台となります。そこがなければ「他者理解」「他者受容」、そして相手も自分もお互いが安心して話せる環境づくりに繋がらないからです。

この学びは「ケアマネジャーの在り方」に通ずるもので、『対人援助職の心の健康を守るもの』。そしてその先には「ケアマネジャーの専門性を高める」というところに繋がっていると感じています。

私自身の変化は、決して学ぶだけで得られるものではなく、



学び・共に学ぶ仲間からのフィードバック・そして月に一度コーチングで自分自身を言語化する時間を重ねたことで、「自己理解」「自己受容」がすすんだ結果だと思っています。

ストレスは仕事だけでなく、プライベートな人間関係からも感じるもの。そのストレスがこんなに軽くなったことは、他の何物にも代えがたい財産となりました。

学び始めて早五年。幸せの輪が広がるよう、コーチングから得たものを育成や個人の成長に活かしていきたいと思っています。

○事務局だより

多数のご参加
ありがとうございました



●東海ブロック研修会について

2月12日、アスト津4階アストホールにて開催された日本介護支援専門員協会東海ブロック研修会は盛会のうちに終わることができました。137名に会場へお集まりいただき、87名がZoomにて参加されました。令和6年度も三重県で開催します。より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●研修会案内メール配信について

研修会案内は、決定次第ホームページでご案内しております。

研修会案内配信にご登録いただくと、いち早くメールでお届けいたします。ぜひご活用ください。



ご希望の方は右記QRコードからご登録下さい →

令和6年能登半島地震のお見舞い

このたびの令和6年能登半島地震により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

事務局では日本介護支援専門員協会を通じ災害支援金を募っています。

皆さまからの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

